

## 第24回国際園芸学会報告

宮崎大学農学部 山下研介

第24回国際園芸学会（国際園芸学会主催、日本学術会議、園芸学会共催、事務局：東京大学農学部園芸学第一研究室内）は、さる1994年8月21日から8月27日にかけて、「健やかな生活と美しい環境を創る園芸」というスローガンを掲げ、京都国際会館において開催された。大会初日には開会式が行なわれ、つづいて本会議のモットーに関連した次のような2題の特別講演が行なわれた。

「人間の健康、特にガン予防と緑黄色野菜」（予防ガン学研究所長 平山 雄博士）

「園芸と日本文化」（国際日本文化研究センター 村井康彦教授）

また、夕刻より同会場内において歓迎レセプションが催され、世界の園芸研究者が一堂に会する華やかな幕開けとなった。第2日からは会議に入り、シンポジウム（12課題）、ワークショップ（12課題）、ビジネスミーティング（29課題）が次々と行なわれた。ちなみにシンポジウムの課題を列記すれば以下のとおりである。1. 人間生活と環境を豊かにする園芸、2. バイオテクノロジーと新作物の創出、3. 植物組織培養における環境の影響とその制御、4. 植物生長調整物質と園芸作物の発育、5. 果樹の休眠とそれに関連する諸問題、6. 東アジア地域における野菜生産、7. 苗生産と養液栽培、8. 新花きの導入と国際流通、9. 園芸生産物の非破壊的品質評価法、10. 収穫後における果実の生理、11. 温室の環境調節と作業自動化、12. 熱帯亜熱帯における果実生産

また、研究発表はオーラル（100セッション）とポスターに分かれて行なわれ、熱心な討議が行なわれたが、これに国内の関連試験場や企業からの展示が加わって会議を一層盛り上げることになった。参加者は世界60ヶ国より1887人（日本人は1073人）で、研究発表の分野は以下のとおりであった。対象作物別：果樹、野菜、観賞植物、食用きのこ、香辛料・香料・薬用植物、その他、研究分野別：遺伝子源の探索、バイオテクノロジーと新作物の創出、生育制御技術、植物保護技術、園芸工学、施設栽培・養液栽培・植物工場、収穫後の取扱い（輸送・貯蔵技術）、園芸生産物の品質、園芸生産における化学資材の利用、環境・緑化技術、生活の中の園芸（家庭・都市園芸）、熱帯園芸、園芸経済、園芸教育、情報処理、その他

開催前には、日本における近年の園芸研究の進展について分野別の紹介記事が Horticultural Abstract 誌に、また日本の園芸生産の実態を紹介する記事が Chronia Horticulture 誌にそれぞれ連載され、さらに本会議の記念出版として「日本の園芸」（単行本）が英文と和文の両方で発刊された。会議期間中には京都市近郊へのオプションツアーが、また、会議の前後には国内の園芸生産の視察を目的としたエクスカージョンが実施され、多数の参加があり、さらに会議後には、いくつかのサテライトシンポジウムも持たれた。会議第7日の夕には都ホテルにて盛大な晩餐会が催され、最終日の第8日には国際会館メインホールにて閉会式が行なわれた。なお、各研究発表の詳しい内容については、園芸学雑誌63巻の特別号として日本文の要録が近々出版されることになっており、根研究との関連についてはこれを参照していただければ幸いである。